情報のプロはこう読む！新聞の正しい読み方（第11回）

新聞記事をネットで読むと見えなくなるもの

2019.05.23

一口に新聞記事といってもさまざまなタイプがあります。分類の方法にもいろいろありますが、まずは大きさや紙面上の位置に注目してみましょう。

大きさと紙面上の位置による分類

――トップ（アタマ）、サイド（カタ・ワキ）、段モノ、ベタ、短信

「一面の見方」などでも触れましたが、新聞社はニュース記事を重要度によって格付けします。この格付けはタテ見出しの段数などに加え、紙面上の配置によっても表現されます。具体的には、右上から左下にかけて、重要な記事から順に並べるのです。

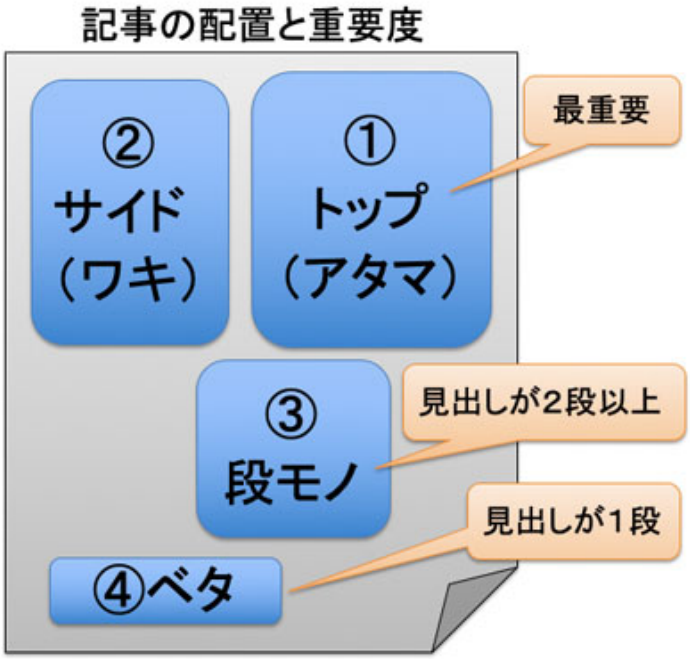
あるページの中で最も重要なのがトップ記事です。1面はすべてのページの中で最も重要度が高いので、「1面のトップ記事」は、その日の最重要ニュースという位置付けになります。

トップ記事は原則としてページの右上に置かれます。ただ、見開きの場合は右ページのトップ記事は左上に置かれる場合があります。

あるページで2番目に重要な記事は「カタ」「サイド」などと呼ばれます。トップの隣、1面であればその左か左下の位置に置かれます。新聞社によって呼び方や優先順位は多少異なります。例えば日経新聞ではトップを「アタマ」、サイドを「ワキ」と呼びます。

サイドの記事は、トップ記事を補足する目的で置かれることもあります。この場合、主となる記事を「本記」と呼び、サイドはその内容を受けて書かれた「付属品」という位置付けになります。

例えば「日本人がノーベル賞を受賞した」という記事が本記なら、受賞者の人となりや受賞までの道のりなどを「サイド」で付けるわけです。こうした記事は「サイドストーリー」とも呼ばれます。



このように新聞紙面では、何本かの記事を組み合わせることでニュースを多角的に掘り下げるという手法がよく使われます。例えば「本記」があって、「サイド」があって、記者会見での一問一答や用語解説が載る、といった形です。

まとまった記事がネットではバラバラになることも… 続きを読む